

幸福実感日本一（政策）職員提案制度の応募状況等について

平成 26 年 10 月 20 日

総務部行財政改革推進課

幸福実感日本一（政策）職員提案制度の応募状況等について、次のとおり報告します。

1 テーマ部門

- (1) 応募提案数 25 件 (24 件)
※ () は昨年度の数字。以下、同じ

- (2) 各部局選考結果 採 用 16 提案
保 留 1 提案
採用は困難 8 提案

※ 各応募提案等については別添「応募提案・選考結果一覧」参照

- (3) テーマ設定担当課による事業への反映
テーマ設定担当課が次年度事業への反映を検討。

- (4) 今後のスケジュール 10 月 10 日 行革本部幹事会
10 月 20 日 行革本部員会議
平成 27 年 2 月 最終確定状況を取りまとめ

2 自由テーマ部門、一口政策提案

- (1) 応募提案数 自由テーマ部門 14 件 (25 件)
一口政策提案 36 件 (53 件) (9 月 30 日現在)

- (2) 担当課による事業への反映
提案のあった内容に応じて担当課に送付しており、次年度事業へ反映できるかについての検討を依頼。

- (3) 今後のスケジュール 10 月 10 日 行革本部幹事会
10 月 20 日 行革本部員会議
平成 27 年 2 月 事業の参考とした提案について取りまとめ

3 職員提案制度の検証

職員やテーマ設定担当課等へのアンケートを実施し、そのアンケート結果により次年度への改善案を検討し、次年度 4 月に次年度実施要領の整備を行います。

【別添】応募提案・選考結果一覧

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
1	防災対策部	01_「防災みえ.jp」メール配信登録の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・防災みえメール配信時の工夫について 配信される時間帯に関係なく文字のみの配信が現状である。真夜中等の就寝時に配信を受けた場合、その内容が確認しづらい。 注意報ならば背面を黄色に、警報ならば赤等に配信する。 ・防災みえのメール配信促進について 各携帯ショップと提携。また市町の教育委員会を通じて生徒に登録を求める。(配信内容の絞り込み) 事業者を通じて県外からの観光者等に事前に登録をしてもらう。 県庁舎等の極めて目立つところに防災みえのアドレスを目立つ色合いにして掲げる。 津駅などの主要駅に大型ディスプレイを用いて防災情報の提供を行う。 ・「防災カード」のような物を作成し登録を促す。 	採用	<ul style="list-style-type: none"> ・防災みえメール配信時の工夫について HTML メールとする必要があり、従来の携帯電話も配信対象とすると困難である。 ・防災みえのメール配信促進について 各携帯ショップとの提携、教育委員会を通じた配信登録促進については、実施を検討する。 また、県庁舎へのアドレス掲示については、パンフレットの配布と併せて、各庁舎管理者への働きかけを行う。 ・「防災カード」のような物の作成による登録促進について 従来から防災対策部で作成している資料に、メール配信サービスへの登録を促す文言を追加できないか検討する。
2	防災対策部	01_「防災みえ.jp」メール配信登録の促進	<p>メール配信サービスの内容を充実化させるため、日常から防災に役立つ情報をオプションとしてメルマガ形式で定期的に配信するとともに、交通情報もメニューに加える。また、メール配信サービスの認知度向上策として、「県政だより三重」の防災コーナーとの連携、「防災みえ.jp」HPでの案内の工夫、高校生への重点的PRを行う。</p>	採用	<p>メールマガジン及び道路情報の配信については、費用を伴うシステム改修が必要となるため、採用は難しい。</p> <p>サービス認知度向上策については、防災みえ.jpでの広報をはじめ、パンフレットの配布などを併せて検討していく。</p>

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
3	防災対策部	01_「防災みえ.jp」メール配信登録の促進	「LINE@」で「防災みえ」のアカウントを取得し、「防災みえ.jp」メールにて配信している内容を LINE でも提供する。	採用は困難	LINE とのシステム連携に費用がかかるため、対応は困難である。
4	戦略企画部	02_人口の社会減対策を考える ～流出抑制と流入促進に向けた取組募集～	<県外進学者囲い込み戦略> 潜在的に三重県に戻ってきたいと思っている県外進学者が、就職時に三重県に戻ってくるように県主導で囲い込みを行う。具体的には、三重県の高校から進学者が多い大学をピックアップして、集中的に三重県での就職をPRする。また、卒業時に同意を得た県外進学者に向けて個別に三重県での就職について情報提供する。さらに、県外進学者で、就職で三重県に戻ってきた県民をネットワーク化し、三重県に戻ってきたいと思っている県外進学者のロールモデルとして活用する。	採用	既に県出身者が多い大学との協定締結に向けた準備を進めているところであり、ネットワーク化についても一部取組に着手済みであり、今後の取組を検討する際の参考とする。
5	戦略企画部	02_人口の社会減対策を考える ～流出抑制と流入促進に向けた取組募集～	若年男女が流入促進するための「カルピスの原液をつくろう」をコンセプトに、人口減のブラックホール化する日本の地方崩壊ピンチを復活できる最大のチャンスにする。今から10年かけて、県南部に「自然と農林水産業」を核にしたカルピスの原液をつくり如何様にも復興デザインが描ける夢のある地域に変革して、21世紀の人間の生き方の真の幸福を感じられる多様な価値観のデザインを創出する。	採用は困難	目指すべき理想的な姿を様々な切り口で提案いただいているが、それらの必要性や達成手段についての具体的な記述が少なく、具体化に向けた検討が困難である。未来思考、バックキャストで政策を考えることはブレイクスルーを起こすために重要なことだとは思いますが、理想を実現するための現状把握や課題設定が不十分だと考える。

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
6	総務部	03_M I E職員力アワードへの応募数やM I E職員力アワード発表会への参加者数を今まで以上に増やすための方策について	M I E職員力アワードの対象を、県だけでなく市町の改善・改革の取り組みにまで広げる。その全取組の中からグランプリを決定することで、「三重“県職員”」ではなく真に「三重」の職員力を表彰する仕組みとする。	採用	<p>県と市町の改善・改革の取組の中からグランプリを決定する提案は、改善・改革活動の成熟度が異なっていること等から直ちに実施することはできないが、市町の優れた取組の紹介など、市町とのさらなる連携のあり方について検討していきたい。</p> <p>また、受賞取組の発表時に、部局長の応援メッセージでどのように水平展開を行うか具体的に表明して頂くことで、トップダウンで水平展開が行われる仕組みをつくるという提案を採用し、事業化を検討する。</p>
7	総務部	03_M I E職員力アワードへの応募数やM I E職員力アワード発表会への参加者数を今まで以上に増やすための方策について	M I E職員力アワード発表会への参加者数を増やす取組として、テレビ放送又は庁内向けインターネット放送を実施するとともに、リアルタイムでの投票を行うことを提案します。	採用	<p>テレビ放送を実施することについての提案を採用し、事業化を検討する。</p> <p>なお、地域機関ではテレビ会議システムを活用していること等からインターネット放送を実施することの提案を採用することはできなかった。また、当日は県職員以外の来場者による投票を実施しており、新たな投票の集計作業等は時間、人数的に厳しいこと等から、リアルタイムでの投票は採用することはできなかった。</p>
8	健康福祉部	04_医療・健康・福祉分野の法規制の緩和策について	応募なし		

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
9	環境生活部	05_男性を対象とした、男女共同参画意識の向上に効果的な啓発の実施	家事などに積極的に取り組んでいる男性のモデル事例集を作成し、積極的でない男性に「自分が当たり前ではない」と気づいてもらう。また、家事などに取り組む意識のハードルを下げることで、「家事などに積極的に取り組むことが当たり前」と考える男性を増やす。なお、作成にあたっては、民間企業等と協働で取り組む。	採用は困難	他県での実施事例から、提案の内容は男性の行動変容（実践）を促すまでの大きな広がりを持った成果にはつながらないと判断したため、採用することはできなかった。
10	地域連携部	06_ふるさと・南部地域に帰りたいをカタチに	平成27年度採用からの三重県職員採用候補者A試験で、東紀州地域の管内の勤務地限定職員を募集する。 このことにより、みえ県民力ビジョン第2編第1章第3節職員力の向上、施策I-1 危機管理、II-5 地域との連携、III-3 雇用の確保 の4つの効果が期待できる。	採用は困難	これまでも、当地域に居住し、業務にあっている職員はいる。また、地域外から赴任する職員がいることで、県庁などで当地域にかかる施策の立案などの際に、赴任した際の経験及び知識が活かされるものと思われることから、今回の提案は採用を見送る。
11	地域連携部	06_ふるさと・南部地域に帰りたいをカタチに	人口オーナスの南部に「友愛（U・I）のふるさと海山を創ろう」をコンセプトに、南部オンリーワンの自然と農林水産業とスローライフ生活をファンダメンタルズにして、異業種の最先端科学研究や観光産業等との融合による経営維新で、今から10年かけて、永く愛されるふるさと南部に友愛の種を蒔く。若者が友愛（Uターン・Iターン）したくなるインスパイアされる魅力のある「ダイバーシティ南部」を創出する。	採用	空き家を活用して都市部の住民が南部地域でスローライフを楽しむことは、一定効果があがると思われるので、今後の施策立案の参考にする。

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
12	地域連携部	06_ふるさと・南部地域に帰りたいをカタチに	都市部で若い世代を中心に、ダウンシフターと呼ばれるワークよりライフを大事にしようと価値観をもった人が増えている。そこで県南部でダウンシフター志向の若い世代ターゲットに月18万円程度をベースにした生業の紹介と田畑付き貸家で野菜など一定の自給ができて都市部ほど支出を伴わないライフスタイルを提案する形で中山間地域などに若い世代の誘致を図る。	採用	働き方の多様性を訴えるには、様々なライフスタイルを提案していくことが重要なので、今後の移住説明会など情報発信の際の参考にする。
13	農林水産部	07_農林水産業の成長産業化と農山漁村の活性化に向けたICTやビッグデータの活用について	ICTを活用し、市場を拡大することで利益の確保を目指し、中山間地域において顧客の範囲を大幅に拡大する。ビッグデータ、クラウドファンディングを活用することでBtoBの取引に柔軟性を持たせ、細かな取引からの収益を確保し、少人数での商取引でも確実な利益の向上を図る。	採用	「いなかビジネス」に取り組む事業者や活動を始めたいとする人たちを対象に、SNSの活用講座など情報発信の研修に取り組んでいるところであり、ご提案のクラウドファンディングについても、活用事例を調査し、研修会などを通じて情報提供などを行っていく。
14	農林水産部	08_農林水産業における多様な担い手の確保・育成について	人口オーナスの南部で農林水産業を改革し強靱化したい担い手を確保するため、「草莽崛起の風を吹かそう」をコンセプトに、今から10年かけて、骨太の担い手が南部で躍動できる経営維新を興す。南部産ブランドの差別化とオリジナル性を活かした地産地消の現場力と創造力を発揮できる草莽崛起の担い手リーダーを育成し、南部全体を元気な担い手の野心がインスパイアされ魅力ある強靱な成長産業の場に創出する。	採用	農山漁村地域等の活力を高めるための地域活性化プラン、漁業・漁村振興計画及びいなかビジネスの取組、地域外の就業希望者の円滑な受け入れのための就農サポーターリーダー制度や漁師塾の設置などへの支援を行っているところであり、いただいたご提案も参考にしながら進めていく。

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
15	農林水産部	08_農林水産業における多様な担い手の確保・育成について	<p>新卒学生や転職希望者が、就農というよりも、他の一般企業と同様に「就職先」として農業を選ぶことを促進するために以下の取組を行う。</p> <p>①学生や転職希望者を対象に、県内の農業生産法人等でインターンシップ研修ができる環境の充実化を図る。</p> <p>②農業大学校または津高等技術学校に農業の短期職業訓練課程を設置する。</p> <p>③新規就農者を「同期」としてネットワーク化し、新規就農者の定着率向上を図る。</p>	採用	<p>① について</p> <p>新規学卒者など若年者に農業を職業の選択肢に加えていただく取組として、平成 24 年度から事業化を検討している。引き続き次年度に向けて事業化の検討を進めていく。</p> <p>② について</p> <p>農業大学校では、作物の栽培期間や年間の栽培回数など農業の特性を踏まえ、1～2年の研修期間が必要と考えており、短期課程の設置は考えていない。</p> <p>県では、地域の先進農家等が農業面、生活面から新規就農者をサポートする制度（就農サポートリーダー制度）を実施しており、こうした取組を通じて、新規就農者の農業技術の習得のほか、農業への定着を進めていく。</p> <p>③ について</p> <p>就農サポートリーダーの元で研修している就農者を対象に、平成 25 年度から経営計画を策定する研修を実施しており、そのなかで、研修生の合同学習の実施や交流の場づくりに取り組んでいる。また、新規就農者には、地域の農村青少年クラブへの加入をすすめており、同世代の農業者との情報交換や地域活動への取組等を通じて、仲間意識や助け合い精神の醸成を図っている。</p>

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
16	農林水産部	09_人口減少下における農山漁村の活性化について	応募無し		
17	農林水産部	10_もうかる農林水産業の実現につなげるための「食」の振興策について	「みえフードイノベーション」の医療食プロジェクトに「みえ地物一番」の協賛事業者と「健康づくり応援の店」等を取り込みマッチングさせる。これにより近年需要が高まっている医療・介護・健康食の地物食材を使った商品開発・販売が促進される。さらに、既に開発されている地物食材を用いた医療・介護・健康食もパッケージ化して、オール三重で売り出す。	採用	今後、医療食プロジェクトの活動のなかで、検討していく。
18	雇用経済部	11_観光客の防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ① みえ旅パスポートへのスタンプ押印などをインセンティブにして、観光者が個々の防災対策を事前に用意すること。 ② 県内外の観光事業者(バス会社、鉄道会社、タクシー会社等)への防災時の必要最低限度の物品の確保。移動備蓄庫。 ③ 県外からの帰宅困難者については、その帰宅困難者人口を減少させる取組。高速道路等の歩行者専用利用やバス等による輸送。或いは、県内に留まらせることにより安全を確保する。 ④ 国道、県道等の主要幹線道路や県内高速道路のNシステム利用(自動車ナンバー自動読み取り装置の略)。 ⑤ 衛星を介した県内被害分布状況図の提供。 	採用	<ul style="list-style-type: none"> ① 防災用品を持参して来県すれば、みえ旅パスポートへスタンプを押印することは仕組みが異なることから採用はできなかった。 ② 事業者の任意取組によることから採用はできないが、観光事業者等への啓発の一環で、各事業者等の取組を促していく。 ③ 観光客の避難、避難所等への受入、早期の帰宅支援体制を整備できるよう、今後、県内2地域において、市町等と具体的な検討を始めることとしている。一方、高速道路等を使った帰宅困難者対策については、基本的に緊急車両が優先されるため一般利用が制限を受けること等から、採用はできなかった。 ④ 観光入込客は施設毎に調査しており、車の流入だけでは商用との区別は不可能である

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
					こと等から、採用はできなかった。 ⑤ 観光客を含めた県民全体に対して行うべきものであり、費用対効果の観点から、採用はできなかった。
19	雇用経済部	12_「食」に着目した産業の振興	11.23 勤労感謝の日、その日ゆえ、日本人の心に響く「食への感謝祭」を、食の神様：外宮周辺にて実施する。その名も「おかげさま」とする。従来型の生産者、飲食店等による物産展、ふるさと自慢でなく、禅寺、鉄道・バス会社、ビール会社、農機具製造者や運送業者など、これまでにない他分野とコラボし、「食のすべてに感謝」をテーマに、毎年、継続拡大しながら、ポスト遷宮の一大誘客イベントに育てよう。	採用	ポスト遷宮と情報発信力という点で効果的であり、事業主体と考えられる商工団体などとも協議を実施し、事業化を検討する。
20	雇用経済部	12_「食」に着目した産業の振興	「三重の食のビジネス・インテリジェンス戦略」をコンセプトにして、今後、世界マーケットでは高付加価値のオリジナルな「地方銘柄」に熱い視線が集まることから、三重の食を世界に伝えていく地域を表現する共通ロゴ冠名を「伊勢自慢」に統一し、地方固有の物語性で重点化する不易流行だけど温故知新である地域重要資源を再発掘し、全世界の人々から「訪ねてみたい御食国＝伊勢の国」としての魅力UPを世界に発信し、食の産業化で全国及び外国人観光客の集客による県内地域の経済活性化と食文化を保存継承する。このため、今から10年かけて、視界を世界に広げ、2000年以上前からの御食国の歴史文化と近代的な食生活が融合した食の物語性型商品化地域ネットワーク化構想として「食のフードピア（フード+ユートピア＝食の理想郷）」で世界戦略を創出する。	採用	⑨外国人観光客を招き導く食の観光産業の創出については、来年度出展を予定するミラノ国際博覧会において、コンセプトとするインバウンド獲得に向けた取組事例の1つであり、事業化を検討する。 ⑦農産漁村体験付き産地レストラン食農ビジネスや⑧食のテーマパークは、既に一部取組みを民間事業者が実施しており、参考にする。 実施例) 三重県農林水産部発行 『三重の里いなか旅のススメ 2014』掲載 施設等

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
21	雇用経済部	12_「食」に着目した産業の振興	県内のすべての鉄道事業者と連携し、県内停車各所から地域の特産品や特産品を使った郷土料理等を提供し、販売する観光列車「美し国トレイン（仮称）」を運行することとし、「みえの食を巡る列車の旅」をプロデュースする。	採用は困難	列車の改造費等にかかる財政負担も大きく、先行する肥後おれんじ鉄道の観光列車「おれんじ食堂」や近鉄の観光列車「つどい」の採算性など費用面での具体的な提案があれば、効果のある提案になると思うが、現時点においては、採用は困難である。
22	雇用経済部	12_「食」に着目した産業の振興	食材等資源テキストから、ものづくり、商品化、プロモーション等の知識、技術等成功に導くノウハウをまとめた食材を用いたオリジナル商品づくりのためのモデルプログラムを作成する。モデルプログラム作成過程に調査や、作成後に活用できる人材育成、施設整備等を盛り込んだり、モデル的な実践も並行して進める無駄のない作業となるような工夫をする。モデルプログラムを活用してできた商品は、様々なつながりを通じて進化させ、一過性に終わらない産業へと発展するよう支援を行うとともに、関わる人すべてが win-win の関係となるような仕組みづくりを行う。	採用	『モデルプログラムの作成 ①地域資源の調査』は、三重の豊富な素材を活用していくにあたり、基礎となる部分であり、三重の食の利活用、情報発信に繋がることから、参考とする。 ②ものづくり、③商品化は、みえフードイノベーションにおいて、既に事業者が取組みを進めている。 【番号 23 と併せて検討する。】
23	雇用経済部	12_「食」に着目した産業の振興	「三重の食」の魅力を調査・分析し、業務用の「三重の食パーフェクトガイド」を作成するとともに、テーマを設けて季節毎に「三重の食 PR キャンペーン」を展開し、「三重の食」の魅力をオール三重で発信する。	採用	プロ向けの「三重の食パーフェクトガイド」の作成は、農林水産事業者と食品関連事業者や飲食店を結びつけるきっかけづくり、三重の食の利活用、情報発信に繋がることから、参考とする。 【番号 22 と併せて検討する。】

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
24	県土整備部	13_お金をかけずに道路の維持管理を行う方策	<県民・県職員オール道路監視員化>事前に登録した県民が道路破損等を見つけたら、スマートフォンで投稿してもらい、県が異常を迅速に把握できるようにする。また、動物の死骸や落石等で簡単に除去できるようなものであれば、県民に自主的に解決してもらえようようなインセンティブの仕組みを作る。そして、県職員には原則、全員登録してもらうこととし、率先して道路の異常の把握・解決に取り組むようにする。	採用は困難	<p>大量の情報が寄せられることが予想され、現時点では、これらの情報のうち、優先度の高い情報を選別する体制を整えることができないため、かえって緊急の案件への対応が遅れてしまうことも心配される。</p> <p>そのため、参考としながらも、今後の課題として、採用は見送る。</p> <p>なお、道路の損傷等の把握については、各建設事務所による道路パトロールのほか、三重県県土整備部 OB で構成される道路サポーター会や郵便局員等による通報制度を活用し、迅速な把握に努めているところである。</p>
25	県土整備部	14_高校生や大学生に土木技術公務員の魅力を PR する方策	土木を専攻する学生に、土木技術公務員の仕事内容等の取材をして発信してもらい。取材での記事を三重県の HP や facebook、リクナビ等に掲載してもらい情報発信する。学生は取材を通して、土木技術公務員の仕事を知ることができるため、就職活動の際に「公務員」の選択肢をもつ可能性が高まる。行政は、自ら情報発信する手間が減る。	採用は困難	<p>学生の取材による情報発信は面白い試みであるが、職員採用につなげていくためには、単に情報を発信するだけでなく、双方向のコミュニケーションが不可欠である。</p> <p>また、職員採用につなげるという観点で提案の内容を考えた場合、取材する学生の皆さんに業務の内容を十分理解してもらうことや、取材内容の調整、取材後の原稿作成面でのサポート等、学生、職員双方に相当な時間が必要となる。</p> <p>以上から、提案の内容をそのまま採用することは困難であるが、学生の皆さんに直接、土木技術職員の仕事を体感してもらうという点は効果があると思うので、まずは、インタ</p>

番号	設定部	応募テーマ	提案概要	選考結果	備考
					ーシップのPRにより一層力を入れ、より多くの学生に土木技術職員の業務を経験してもらう場をつくっていく。
26	県土整備部	15_ベテラン職員の知識・経験を「見える化」し、若手職員へ継承する方策	イントラネットの職員録に各自の興味のある分野や勉強している（していきたい）ことを明記し、習得している分野を「見える化」する。習熟している職員を中核とし、その周辺の職員に知識の普及がスムーズに行われるようにする。	保留	自由テーマ部門で提案されている『知識・興味を「見える化」し、他職員へ継承する方策』と同様の提案（自由テーマ部門の方は全庁的な展開を提案）であることから、総務部と連携して検討していく。
27	教育委員会	16_子どもの体力向上	応募なし		
28	教育委員会	17_キャリア教育の充実	子どもが早い時期から就職について考える、また、子どもと保護者の考え方の違いを少なくする方策として、中学生が自分の親の就業を体験（見学）する中学生版「子ども参観」を提案する。体験を通して、「働くということ」について、中学生は意識してもらい、また、親は子どもと話し合うきっかけとする。	採用は困難	同じ趣旨の取組(しごと密着体験：小中高校対象)をすでに事業として実施しているところであり、いただいた提案の趣旨を踏まえ、今後の事業実施の参考とする。